

姫路商工会議所には様々な業種や規模の事業所が加入されています。
そのなかで、当所経営指導員が会った「キラッ」と光る事業所の取り組みを
ご紹介させていただきます!



着物をもっと美しく— 日本の伝統を支える職人の技

高田和裁 代表 高田 典浩 氏



職人が丁寧に縫い上げた着物は「高田和裁」の
オリジナルタグを入れて仕上げる



職人の技術を間近で体験できると評判の和裁教室

優秀な和裁士が集う「高田和裁」

反物を美しい着物に仕立てる「和裁士」。和裁士は、日本の伝統的な衣装である着物に欠かせない存在だが、現在では、着物の仕立てのほとんどが人件費等の安い海外で行われるようになり、和裁士の人数も減少しているという。

着物と和裁士を取り巻く環境が激変する中、姫路市白国にある「高田和裁」では、国家資格「和裁技能士」の最上級である1級を持つ職人4人が、日本のプライドをかけた着物づくりに日々邁進している。職人たちは、全ての工程が手作業だというのに、反物を3～4日で着物に仕立て上げるというから驚きだ。同社の職人の優れた技能の秘訣について、代表の高田典浩氏にお聞きした。

技能グランプリ・技能五輪大会で 認められた職人の腕

二代目として同社を受け継いだ高田氏は、全国の職人たちが技術を競い合う「技能グランプリ」や「技能五輪」といった大会に、自社の職人たちを出場させることを決めた。独自の運針技術を研究し、職人たちに指導することで、何人もの職人を優勝や上位入賞の快挙に導いた。大会では、審査員たちに注目されるプレッシャーに打ち勝つことが何よりも難しく、重要だという。「上位入賞を目標としていたので、練習は厳しかったかもしれないが、職人たちに一生モノの技術を身に着けてほしいという思いがありました。」と語る高田氏。大会で評価された通り、美しく正確に縫い上げられた高田和裁の着物は、料亭や旅館から芸能関係者まで、様々な顧客から選ばれている。

「これだけ優秀な職人が揃う事業所は稀少です。仕立ては、美しい生地を着物に仕上げる大切な仕事です。仕立てにまで気を使う人はなかなか少ないですが、一流の職人が仕立てた着物は背筋がずっと伸びるような魅力があります。」と高田氏は語気を強める。

プロが教える和裁教室が盛況

職人たちが作業を行う部屋の隣では、時折朗らかな笑い声が上がる和裁教室が行われている。和裁教室を担当しているのは代表の妻で、高田和裁が誇る一流の職人の1人でもある早奈恵さん。時に厳しく時に優しくプロならではの技術力と丁寧さでレッスンを行い、今では20人ほどの生徒を抱えているという。生徒たちからは、「和裁は、習えば習うほど奥が深い」「先生の技術に感動して、もっとうまくなりたいという意欲が湧く」と評判だ。早奈恵さんは、「たくさんの人に和裁や着物の楽しさを伝えることができれば嬉しいです。」と笑顔を見せた。

今後の展望

高田和裁では、皮革と和織物をコラボレーションさせた鞆や名刺入れなどの商品の受注生産も行っている。

時代が激しく変化する中、「和裁」という日本の技術が今後どのような変革を遂げるのか注目される。

DATA

事業内容：和服縫製・和裁教室
所在地：〒670-0808 姫路市白国1-19-3
電話：079-285-2663
FAX：079-224-7874
URL：<http://takatawasai.jp/>